

MONTHLY CONTENTS

2019 NOVEMBER

LEON Journal

Culture & Entertainment Column

Volume 001

男たちよ

目覚めなさい

「あなたは
何がしたいの?」

Theme

イラスト/ユリコフ・カワヒロ、林田秀一

ぶし

きげんよう。今年の初め、ヴェネチアでの仮面舞踏会にて、

プチ・バダスなLEON編集部の方と出会い、楽しい時間を一緒にしました。それを機に日本にも時折訪れ、こうして読者のみなさまにメッセージをお届けする機会をいただくことになりました。無自覚なファッションや無意味な振る舞いの闇からあなたを覚醒させ、グローバルに通じる洗練を身につけていただくことが私のミッションです。

日本の男性は世界基準から見ると、小さいです。とはいえ、不思議な現象があります。それはお洒落な男性のアピールの主な対象が、同世代または同クラスターの男性であること。ホモセクシュアルというわけではないのに、理解と共感を求める相手が同族の男性であることが多いのです。

プチ・バダスな男性のエレガンスを標榜するLEON的ファッションにしても、目指すのは「モテる」と公言し、

Volume 001



誌面にも若い女性とともにセクシーな時間を楽しむプレイフルな熟年男性の写真が満載ですが、こうした男性像にもっとも強く憧れ、魅了されるのは、ほぼ同世代あるいは少し下世代の男性のようです。結果、社交スペースでは、似たような装いの男性同士が、身につけているアイテムを褒め合ったり、マニアックな情報を喜々として交換し合っていたりする図というのに遭遇することになります。

女性はどこに？ あなたは、何がしたいの？

ファッションがわかる人に認められたい。それもうれしいことです。しかし、もしあなたが仲間受けではなく、

あなたらしい魅力でモテたいと望むなら、モノの奥に社会的地位や財力を瞬時に読み取る習性をもつ若い女性とのデートをしばしばお預けにして、経験を重ねたマダムと話してみるのはいかがでしょうか。日本では経験を重ねた女性を疎んじる風潮が蔓延していることは、私も来日の度に感じます。でも、知っておきましょう。プルトラート（富裕層）の社交界でステツプアップしていく男性は、マダムを大切に扱うことが上手いというのを。知恵を授けてくれるうえ、秘められたネットワークの鍵を握るのが、ほかならぬマダムだからです。

そうして本物の魅力を磨いて自信をもてば、本命の女性は追わずとも引き寄せられてくるものです。

靴や時計もいけれど、**マダムの助言とご紹介の威力に、目覚めな**
わい。

Profile

グローバル化が進む社交界事情にも通じる。密かな趣味は人間観察とコスプレ。好きな飲み物はモンラッシェ。日本ではほとんど知られていない、ある小国の女王とのウワサも!?



カトリーヌ10世

Catherine X